

厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業（精神障害分野）
「摂食障害の診療体制整備に関する研究」
分担研究報告書

総合病院における診療体制と連携の明確化に関する研究

分担研究者 須藤信行 九州大学大学院医学研究院心身医学 教授
研究協力者 高倉 修 九州大学病院心療内科
波多伴和 九州大学病院心療内科

研究要旨

【背景】現在、摂食障害診療の問題点として、治療者および専門施設が不足していることが挙げられる。そのため摂食障害の診療体制整備は急務である。【目的】総合病院における摂食障害の診療実態を把握し、連携体制を明確化すること。【方法】九州大学病院心療内科を新規に受診した摂食障害患者のプロフィールを独自に開発したデータシートを用いて調査した。また、平成 27 年度後半からは、新たに発足した福岡県摂食障害治療支援センターの効果についても検証した。【結果】神経性やせ症では、国際診断基準の最重度に相当する BMI < 15kg/m² の患者が最も多かった。居住地の検討では、約 20%が福岡県および近県以外の遠方からの受診であった。福岡県摂食障害治療支援センター設置後、周辺病院との連携を強化したが、九州大学病院の受診患者は昨年度比 1.3 倍に増加した。なかでも 10 代前半の患者が増加し、多くは神経性やせ症・摂食制限型であった。【考察】身体的な管理が必要な重症患者が九州大学病院に多く受診しているが、初診・入院の順番待ちが続いており、福岡県内外における診療可能病院の増加の必要性がより明らかとなった。センター事業は、受診を躊躇していた患者が受診するきっかけとなり、早期治療につながる可能性が示唆された。【結語】重症患者の対応、患者の発症早期の受診を可能にするためにも、受け入れ態勢の強化および相談業務の継続が必要であると考えられる。

A．研究目的

総合病院における摂食障害の診療実態を把握し、連携体制のあり方を明確化することを目的とした。

B．研究方法

- ・年齢、病型、BMI、罹病期間、都道府県コードなどが自動算出されるデータシートを開発。
- ・平成 27 年 4 月 1 日から 11 月 30 日に九

州大学病院心療内科を新規受診する摂食障害患者（新患）のプロフィールを、データシートを用いて把握。

- ・平成 27 年 12 月に九州大学病院心療内科に設置された福岡県摂食障害治療支援センターの相談件数ならびに相談者プロフィールを把握し、治療支援センター設置後（平成 28 年 1 月 1 日～12 月 22 日）の新患者プロフィールを平成 27 年分と比較、検討した。

(倫理面への配慮)

患者のプライバシーに配慮し、データは匿名化して管理した。

C. 研究結果

<平成 27 年 4 月～11 月>

1. 受診した摂食障害患者 (67 人) のすべてが女性であった。
2. 病名内訳においては 55% が神経性やせ症 (摂食制限型 28%、過食排出型 27%)、31% が神経性過食症、4% が過食性障害、9% がその他の摂食障害患者であった。
3. 平均年齢は 29.2 ± 11.9 歳で、罹病期間は 7.9 ± 8.9 年であった。
4. 年齢層別で最も多かったのは 20～24 歳であった (全体の 18%)。これまで見られなかった 10 代前半の患者を 10% 認めた。
5. 神経性やせ症では DSM-5 における最重度の患者と軽症に分類される患者数が最も多く、ともに 43% であった。
6. 受診患者の居住地は 80% が福岡県内、20% は県外からの受診者であった。

<平成 28 年 1 月～12 月>

1. 受診した摂食障害患者 (130 人) のすべてが女性で、前年同期間と比べて約 30% 増加した。
2. 病名内訳においては 54% が神経性やせ症 (摂食制限型 35%、過食排出型 19%) であり、摂食制限型の割合が大きく増加した。28% が神経性過食症、8% が過食性障害、10% がその他の摂食障害患者であった。
3. 平均年齢は 27.6 ± 11.7 歳で、前年と比べて低下した。
4. 年齢層別で最も多かったのは前年と同じく 20～24 歳であった (全体の 19%)。10 代前半の患者は前年の 8 人から 17 人に

増えた。

5. 治療支援センターで受けた相談件数は 355 件で、相談者の居住地は福岡県が全体の 72%、福岡県を除く九州各県 + 山口県が同 15%、それ以外の地域 (東京・大阪を含む) からが 14% であった。

6. 受診が必要と考えられた相談者のうち 33% に九州大学病院の受診を勧め、45% に福岡県内の他院受診を勧めた。

D. 考察

九州大学病院心療内科には、従来より重度の神経性やせ症患者が多く受診している。このたび福岡県摂食障害治療支援センターの設置に伴い、県内の他院との連携を強化した。その結果、福岡県内の他施設においても多くの患者を受け入れてもらい、連携強化による効果が認められた。一方、九州大学病院を受診する患者数も約 30% 増加しており、更なる連携強化による役割分担が必要と考えられる。

摂食障害患者においては、入院治療が必要な場合も多く、当科の固有病床数 31 床のうち約半数は摂食障害患者が占めている。外来診察や入院治療を希望する患者も多いが、いずれも順番待ちの状態であり、優先度などを考慮しながら対応している現状である。地域の医療機関における出張講習を受講して、新たに複数の施設が摂食障害患者の受け入れを表明しており、同講習の有効性を裏付けるものと言えよう。

摂食障害患者の新規受診に、10 歳代前半の小中学生が増えた要因として、福岡市の学校検診との連携に加えて、治療支援センターの普及・啓発活動 (メディアやホームページ) が保護者の目に止まったことが挙げられる。こうした若年層の患者はその

ほとんどが発症1年未満の神経性やせ症・摂食制限型であり、摂食障害患者全体における摂食制限型の割合が大きく増加した。一般に過食排出型に病型移行する前の摂食制限型は治療に対する反応性が良いことが知られている。摂食障害治療支援センターの活動が、患者の早期発見・早期受診を促し、治療予後の改善にもつながるかもしれない。

E . 結論

福岡県摂食障害治療支援センター設置に伴い地域における医療機関の連携を強化した。これらの活動は、摂食障害の望ましい治療体制の構築に有効である。

F . 研究発表

1. 論文発表

- 1) 波多伴和, 須藤信行:腸内フローラと摂食障害. 分子生物医学 17(1): 24-28, 2017

2. 学会発表

- 1) 高倉修, 山下真, 波多伴和, 河合啓介, 須藤信行. ストレス関連疾患としての摂食障害 病態と治療. 第57回日本心身医学会総会ならびに学術集会 2016.6, 仙台
- 2) 権藤元治, 河合啓介, 守口善也, 樋渡昭雄, 高倉修, 森田千尋, 山下真, 吉原一文, 江藤紗奈美, 須藤信行. 目に見えるストレス ニューロイメージング心身医学の新展開 心身医学における安静時機能的MRI研究. 第57回日本心身医学会総会ならびに学術集会 2016.6, 仙台
- 3) 波多伴和, 森田千尋, 朝野泰成, 高倉修, 山下真, 河合啓介, 須藤信行. 神経性やせ症における血清メタボローム解

析. 第57回日本心身医学会総会ならびに学術集会 2016.6, 仙台

- 4) 山下真, 河合啓介, 波多伴和, 高倉修, 須藤信行. 神経性やせ症患者における心肺運動負荷試験を用いた運動耐容能の評価. 第57回日本心身医学会総会ならびに学術集会 2016.6, 仙台
- 5) Makoto Yamashita, Keisuke Kawai, Chie Suzuyama, Tomokazu Hata, Shu Takakura, Nobuyuki Sudo. Evaluation of the exercise tolerability using cardiopulmonary exercise training in patients with anorexia nervosa. The 17th Asian Congress on Psychosomatic Medicine 2016.8, Fukuoka, Japan
- 6) 波多伴和, 森田千尋, 高倉修, 須藤信行. 摂食障害の生物学的基盤 神経性やせ症患者における腸内フローラの異常. 第20回日本摂食障害学会 2016.9, 東京
- 7) 山下真, 黒川駿哉, 鈴山千恵, 波多伴和, 河合啓介, 高倉修, 須藤信行. 嚥下恐怖に対する小児向け認知行動療法が有効であった回避制限性食物摂取障害の小児例. 第20回日本摂食障害学会 2016.9, 東京
- 8) 鈴山千恵, 高倉修, 瀧井正人, 横山寛明, 権藤元治, 森田千尋, 河合啓介, 須藤信行. *Clostridium difficile* 関連腸疾患の再発を繰り返した神経性やせ症 / 過食・排出型の2例. 第20回日本摂食障害学会 2016.9, 東京
- 9) 山下真, 河合啓介, 鈴山千恵, 波多伴和, 高倉修, 須藤信行. 神経性やせ症患者における心肺運動負荷試験を用いた運動耐容能についての検討. 第21回

日本心療内科学会 2016.12, 奈良

- 10) 山下真, 黒川駿哉, 鈴山千恵, 波多伴和, 河合啓介, 高倉修, 須藤信行. 小児向け認知行動療法が嚥下恐怖に有効であった回避制限性食物摂取障害の小児例. 第56回 日本心身医学会九州地方会 2017.1, 熊本
- 11) 鈴山千恵, 高倉修, 山下真, 波多伴和, 須藤信行. 治療拒否が強い神経性やせ症患者に対し、積極的な家族への介入が有効であった1例. 第56回 日本心身医学会九州地方会 2017.1, 熊本

G . 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし